



iPerf Test App

iPerf は、UDPやTCPのスループットやロスを測定するために使用される標準的なネットワークパフォーマンスツールです。

iPerf アプリは、NetAlly Test Accessoryまたは iPerf サーバーのエンドポイントにiPerf3 パフォーマンステストを実行します。



NetAlly **Test Accessory**は、ネットワーク接続テストを実行し、結果をLink-Liveクラウドサービスにアップロードし、他のNetAllyハンドヘルドテスターが実行した**iPerf テスト**のiPerfサーバーエンドポイントとして機能します。

テストアクセサリの詳細は、

[NetAlly.com/products/TestAccessory](https://www.netally.com/products/TestAccessory)からご確認ください。

また、[弊社のWEBページ\(NetAllyサポート情報\)](#)からもご確認いただけます。

PCなどにインストールされたiPerf サーバーをエンドポイントとして使用する場合、AirCheck G3 iPerf テストを実行するには、iPerf バージョン3が必要です。iPerf サーバー・ソフトウェアは、<https://iperf.fr>からダウンロードできます。


iPerf 設定

iPerf テストを実行するには、AirCheck G3ユニットをiPerf エンドポイントと通信できるように設定する必要があります。iPerf サーバーのアドレスを手動で入力するか、iPerf 設定で**テストアクセサリ**のアドレスを選択することができます。

カスタムiPerf 設定の保存

iPerf アプリでは、後で同じエンドポイントにiPerf テストを実行するための設定を保存することができます。

≡	iPerf 設定	📁
IPv4 アドレス		
10.250.3.182		
ポート		
5201 (iperf3)		

保存アイコン  をタップすると、設定の読み込み、保存、インポート、エクスポートができます。

設定を保存すると、iPerf の設定画面と結果画面の上部に、入力したカスタム名が表示されます。

この画像の例では、ユーザーは“TOYO iPerf Endpoint”という名前のカスタムiPerf 設定を保存しています。




ディスカバリのテストアクセサリ

ディスカバリアプリのテストアクセサリの詳細画面から、フローティングアクションボタンを使って、iPerf テストを開始することができます。

1. ディスカバリアプリを開き、メインのディスカバリー一覧からアクティブなテストアクセサリを選択し、その詳細画面を開きます。




2. **フローティングアクションボタン (FAB)** 
をタップすると、アクションメニューが表示されます。



3. **iPerf** アプリボタンを選択すると、**ディスカバリ**のテストアクセサリ画面からIPアドレスが入力された**iPerf** アプリが起動します。

NOTE: また、FABメニューの**ブラウズ**を選択すると、テストアクセサリのWebインターフェイスが開き、ステータスを確認したり、設定を行ったりすることができます。

iPerf 設定を構成する

iPerf テストの設定を手動で行うには、iPerf 画面の設定  を開いてください。

≡	TOYO iPerf Endpoint	
IPv4 アドレス		
10.250.3.182		
ポート		
5201 (iperf3)		
継続時間		
10 秒		
プロトコル		
TCP		
方向		
アップストリーム/ダウンストリーム		
アップストリーム スレッシュホールド		
10 Mbps		
ダウンストリーム スレッシュホールド		
10 Mbps		

各項目をタップして、必要に応じて選択項目を入力または修正します。変更された設定は、自動的に適用されます。設定を終えたら、戻るボタン◀をタップしてiPerf テスト画面に戻ります。

NOTE: iPerfは、テストポートインタフェースのみで動作します。

IPv4 アドレス : フィールドをタップして、宛先iPerfサーバーのIPv4アドレスを入力または選択します。iPerf テストでは、IPv4アドレスのみが許可されます。

IPv4 アドレス

192.168.1.128

192.168.3.83

192.168.3.83

キャンセル

OK

IPv4アドレスダイアログのドロップダウンリストには、AirCheck G3がディスクバリプロセスを通じて検出したすべてのテストアクセサリと、AirCheck G3と同じLink-Liveの組織に登録されているすべてのテストアクセサリが表示されます。

NOTE: ダイアログのアドレスフィールドをクリアすると、検出されたテストアクセサリのアドレスリストが表示されます。

ポート: デフォルトのiPerf 3 ポート番号は5201です。フィールドをタップして、別のポート番号を入力します。

NOTE: ここに入力するiPerf ポート番号は、iPerf サーバーで使用されているポート番号と一致している必要があります。必要な場合は、**Test Accessory ユーザーガイド**を参照してください。

継続時間: この設定は、iPerf テストの**アップストリーム**または**ダウンストリーム**の一方向の時間の長さです。下記の方法を**アップストリーム/ダウンストリーム**の両方に設定した場合、テスト時間の合計はここで設定した値の2倍になります。

フィールドをタップして、新しい持続時間を選択するか、カスタム値を入力します。デフォルトは10秒です。

プロトコル: TCPはデフォルトのプロトコルです。UDPセレクトをタップすると、UDPに切り替わります。

NOTE: TCPプロトコルを実行するiPerf テストは、自動的に最速の速度で実行されます。

UDPプロトコルのテストを実行する場合、iPerf アプリは選択した帯域幅での実行を試みます。

方向：iPerf テストは、**アップストリーム**、**ダウンストリーム**またはその**両方**で実行することができます。デフォルトは、**アップストリーム/ダウンストリーム**です。このフィールドをタップすると、**一方**向のみのテストが設定されます。

アップストリームとダウンストリームバンド幅：これらのフィールドは、UDPプロトコルが選択されている場合にのみ表示されます。UDPプロトコルを使用したiPerf テストに必要な帯域幅を指定します。

アップストリームとダウンストリームスレッショルド：しきい値は、AirCheck G3がテストの**合格**または**不合格**の判定に使用する値です。iPerf しきい値は、スループットレートです。デフォルトは10Mbpsです。

iPerf テストの実行

iPerf テストを実行するインターフェース(テストポート)のリンクがアクティブであることを確認します。Wi-Fiテストポートでは、リンクを確立するために**自動テスト Wi-Fiプロファイル**が実行されている必要があります。管理ポートは、接続が可能であれば自動的にリンクします。

iPerfのメイン画面の**開始**ボタンをタップしてテストを開始します。



iPerf

開始



TOYO iPerf Endpoint

デバイス名: [192.168.3.83](#)

IP アドレス: 192.168.3.83

インターフェース: Wi-Fi ポート

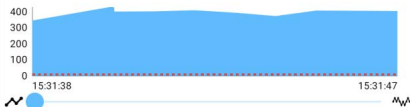
結果

継続時間: 10 秒

開始: 15:31:35

ステータス: 成功

TCP スループット Up (Mbps)



	最新	最小	最大	平均
スループット Up	400.3	340.5	428.8	389.1
リミット				10.0

TCP スループット Down (Mbps)

iPerf 結果画面の上部にはテスト特性やステータスが表示され、画面下部にはTCPまたはUDPのアップロード/ダウンロード速度のリアルタイムグラフが表示されます。

グラフ上でズームを行うには、スワイプ、ダブルタップ、スライダーの移動が可能です。

デバイス名 : iPerf サーバーまたはテストアクセサリのホスト名またはアドレス

IP アドレス : iPerfサーバーのIPv4アドレス

インターフェース: テストが実行されている

AirCheck G3テストポートです。

結果

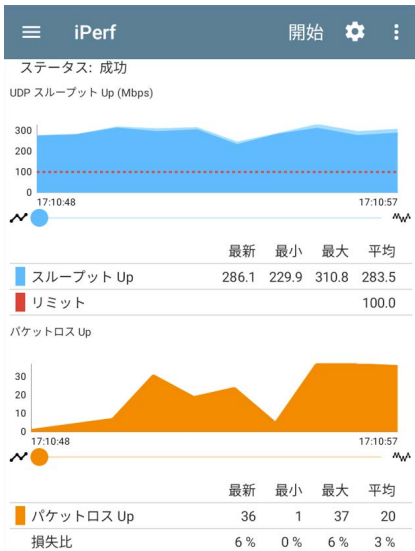
- **継続時間** : iPerf 設定から継続時間を設定したもの
- **開始** : テスト開始時間
- **ステータス** : テストの成功または不合格のステータス

TCP/UDPスループットのUpとDownグラフ :

iPerf グラフは、iPerf サーバーへの**Up**またはiPerf サーバーからの**Down**スループットレートをMbpsでプロットします。

各グラフの下を表には、「**最新**」「**最小**」「**最大**」「**平均**」レートが表示されます。

リミット : iPerf アプリの設定にあるスレッショルドです。しきい値はグラフ上でも赤い点線で表示されます。




UDPパケットロス UpグラフとDownグラフ：

UDPプロトコルのテストを実行した場合、iPerf の結果にはパケットロスのグラフと数値の表も表示されます。

パケットロスの数と割合の値は、グラフの下を表に表示されます。**パケットロス Up**のグラフと表は、アップストリームテスト終了時にiPerf サーバーから結果を受信するまで、測定値を表示しません。

なお、**パケットロス Up**の数値は、**パケットロス Down**の数値よりもずっと小さくなる可能性があります。

iPerf テスト結果をLink-Liveへアップロード

iPerf テスト結果をLink-Liveに送るには、iPerf 画面右上のアクションオーバーフローボタン  をタップし、**Link-Liveへアップロード**をタップしてください。



Link-Live

by NetAlly



コメント


TOYO Test

Job コメント

Test



LINK-LIVEに保存

Link-Liveの共有画面が開き、Link-Liveの結果ページ  に表示されるiPerfの結果に対してのコメントの添付が可能です。